

■ 開業時に歯科用CTを導入しようと思われた理由は何でしょうか？

私は口腔外科医で、その特色を活かした医院として開業したかったのでCTを入れるのは第一条件でした。いろんな症例で手術をより確実に安全にアプローチしようと思うと、パノラマだけでは不十分でもっと情報が欲しい。CTは必須だと思っています。

■ お勤めだった病院ではどんな外科処置をされていたのですか？

口腔外科全般です。癌の手術、骨折、顎骨嚢胞、副鼻腔炎、上顎洞炎などそういった手術全部です。術前診査がパノラマだけということはずなかつたですね。骨折でも斜めに折れている場合など、どう折れているのかはわかりませんから。

■ 数あるCT装置の中でもRevoluXにされた決め手は何でしょうか？

撮影範囲が大きいこと、医科のCTと同じようにCT値がしっかり出ていること、撮影の操作性がいいこと、それからコストパフォーマンスがいいことです。

口腔外科医としてはやっぱり広い範囲を見たいですね。φ4mmやφ6mmのように歯の部分だけではなく、顎骨全体を見て治療したいので撮影範囲は広い方がいいわけです。

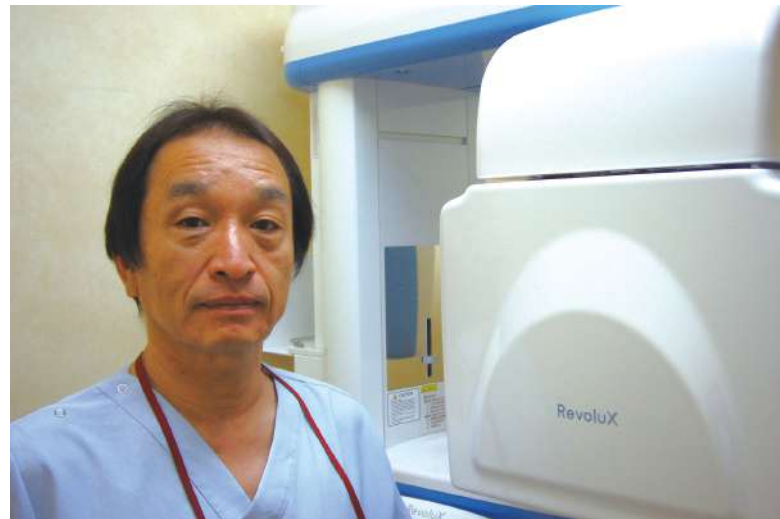
またCT値ですが、インプラントは骨の堅さを事前に評価できないと難しいケースもあるので、CT値がしっかり出ると安心できます。「CT値と実際の骨質が違うぞ」みたいなことがないですから。

操作性については、撮影の手順がなるべく簡単でないとスタッフもおっくうになっちゃうんですね。あるスタッフが前に勤めていた医院ではCTの位置決めが難しく、撮影を失敗するケースが結構あったらしいんです。RevoluXはパノラマみたいに位置決めが簡単なのでスタッフからも好評です。

一つの要素だけでは他にもいいものがあったりしますが、いくつかを総合的に勘案するとRevoluXが一番よかったです。

■ 以前の病院でもインプラントではCTを撮られていましたか？

撮ってました。ただ医科用CTなのでアーティファクトが結構強



いんです。インプラントの場合、歯の近くの歯槽骨を見たいのに金属アーティファクトが強くてなかなか見えないケースがありました。RevoluXはGIDORAでアーティファクトを低減するのですごく助かってます。全然違います。普通のCTだとクラウンが入っているとその周囲はもちろん、その影響で他の部位も見えなくなることがほとんどですから。

■ アーティファクト除去以外で医科用CTと比べた優位性は？

骨の細かいところまでRevoluXでは分かりますね。骨折とか腫瘍とかは医科用CTでも十分ですけど、普通のエンドやペリオには使えませんよ。

それから放射線量が少ないことも優位性のひとつですね。線量を気にされる患者さんは結構いらっしゃいますから。例えば矯正では、CTの前にパノラマとかセファロとかを続けて何回か撮りますよね。それに加えてCTも撮るとなると、親御さんはちょっと抵抗感があります。だから手もとの資料(図1)で、「このCTはこのくらい線量が少ないです。」と説明します。

■ RevoluXは日々の診療にどうお使いですか？

顎嚢胞や歯根嚢胞を手術で取るケースが結構あって、そういう時もCTを撮ります。埋伏歯でもどっち側に向いてるとか、どっちからアプローチした方が骨削除が少なくて有利かという情報は、CTでないとわかりません。この症例(図2)も埋伏歯が根尖部のすぐ横にあるので、下手にやると21]にダメージを与えてしまいます。事前に情報がなくて怖いんですね。

私は、折れた歯をくっつけて元に戻す再植とか、歯の移植とか、他の先生があまりされないことを積極的にやっていますので、そういうケースの紹介をいただくことが多いんです。今後もそんな症例をいろいろCTで見たいと思っています。

口腔外科医として今までと同じことを全部やると思うとやっぱりCTは必須ですね。

本日はお忙しいところお時間を頂戴しましてありがとうございました。

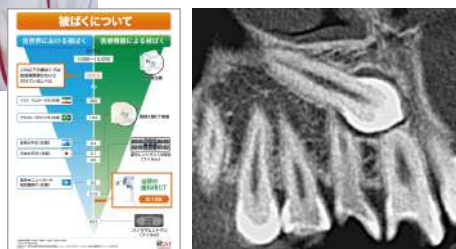


図1) RevoluXの被曝資料 図2) 埋伏歯の歯冠が21]の根尖に近接している。